

令和六年歌会始御製御歌及び詠進歌

和

御製

をちこちの旅路に会へる人びとの笑顔を見れば心和みぬ

皇后陛下御歌

広島をはじめて訪^とひて平和への深^{おも}き念^{おも}ひを吾^{あこ}子は綴^とれり

皇嗣殿下

早朝の十和田の湖面に映りぬし色づき初めし樹々の紅葉

皇嗣妃殿下

鹿児島に集ふ選手へ子らの送る熱きエールに場は和みたり

愛子内親王殿下

幾^{いくとせ}年の難^いき時代を乗り越えて和歌のことばは我に響^こきぬ

佳子内親王殿下

待ちわびし木々の色づき赤も黄も小春日和の風にゆらるる

正仁親王妃華子殿下

わが君が退院されて常盤松明るくなりぬ心も和む

寛仁親王妃信子殿下

病^{びやうにん}人になりたる我を支へくれしまなざし優^{ひと}しき人等に和^なむ

彬子女王殿下

道真公遷られたまふ御祭りに頬やはかせにふはりと和風の吹く

憲仁親王妃久子殿下

仁和寺のお堂にひびくしやうみやう声明の音ふくらみて我をつつみぬ

承子女王殿下

突然わめいに和鳴にぎやか秋空を鳥もどりて夕暮れを知る

御製

をちこちの旅路に会へる人びとの笑顔を見れば心のみぬ

天皇皇后両陛下には、皇太子同妃両殿下時代を含め、日本のほぼ全ての都道府県に行幸啓で訪れられています。（天皇陛下は四十七都道府県全て。皇后陛下にはオンライン二県を含め四十五都道府県。）令和になってからは、両陛下おそろいで、オンラインも含め二十八の都道府県に行幸啓になられています。

行幸啓で訪れられた際、両陛下には、その地の皆様に温かく迎えていただかれたことを嬉しくお思いになり、この御製では、天皇陛下が、各地でお会いになった方々の笑顔を観覧になってご自身のお心も和んでいらっしやるお気持ちを
お詠みになりました。

皇后陛下御歌

広島をはじめて訪^とひて平和への深き念^{おも}ひを吾^{あこ}子は綴^とれり

愛子内親王殿下には、中学三年生五月の修学旅行の折に初めて広島を訪^とれられました。広島では、原爆ドームや広島平和記念資料館の展示などをご覧になって平和の大切さを肌で感じられ、その時のご経験と深められた平和への願いを中学校（学習院女子中等科）の卒業文集の作文にお書きになりました。

日頃から平和を願われ、平和を尊ぶ気持ち^ちが次の世代に、そして将来にわたって受け継^つがれていくことを願^{ねが}っていらつしやる天皇皇后両陛下には、このことを感慨深くお思いになりました。この御歌は、皇后陛下がそのお気持ち^ちを込めてお詠^よみになったものです。

皇嗣殿下

早朝の十和田の湖面に映りみし色づき初めし樹々の紅葉

秋篠宮皇嗣殿下は、四十数年前の秋に、東北地方をお訪ねになったことがありました。その際、早朝に十和田湖の周辺をご散策になり、水の澄んだ十和田湖と周辺の樹木の紅葉を楽しまれました。その光景を歌にお詠みになりました。

皇嗣妃殿下

鹿児島に集ふ選手へ子らの送る熱きエールに場は和みたり

秋篠宮皇嗣同妃両殿下は、昨年十月に「特別全国障害者スポーツ大会」ご臨席のために鹿児島県をお訪ねになりました。秋晴れの下におこなわれた開会式では、スタジアムの席から地元の子どもたちが、自分たちの前を通る選手団各々に「きばいやんせ」（鹿児島という言葉でいう「がんばって」と都道府県名を呼び、色鮮やかなステイックバルーンを鳴らす音や動きで、熱いエールを送りました。皇嗣妃殿下は、そのような子どもたちの応援で会場の雰囲気や和んだことを思い出されながら、この歌をお詠みになりました。

愛子内親王殿下

幾年いくとせの難き時代を乗り越えて和歌のことばは我に響きぬ

愛子内親王殿下には、令和二年四月に学習院大学文学部の日本語日本文学科に御進学になり、昨年四月に四年生に進級されました。このお歌は、大学の授業で学ばれた中古・中世に詠まれた和歌が、戦乱の世も越え、およそ千年の時を経て、現代に受け継がれていることに感銘を受けられたお気持ちをお詠みになったものです。

佳子内親王殿下

待ちわびし木々の色づき赤も黄も小春日和の風にゆるるる

佳子内親王殿下は、毎年、今年はいっ紅葉を見られるのだからかと楽しみに待っていらっしやいます。昨年は、十二月初旬の小春日和の日に、赤や黄色に色づいた木々をご覧になりました。青い空の下、色鮮やかな葉が風に揺られています。ますます美しく見えたことをお詠みになりました。

正仁親王妃華子殿下

わが君が退院されて常盤松明るくなりぬ心も和む

正仁親王殿下には、昨年三月に尿管結石のご手術をお受けになり、その後、尿路感染症を発症され、ご入院になりました。

また、昨年八月末には、新型コロナウイルス感染症に感染され、ご入院になりました。

正仁親王妃殿下には、正仁親王殿下がご入院の度、殿下の様子を心配されながら、宮邸での日々をお過ごしでした。そのような中で、殿下がお元気になって退院され、宮邸にお戻りになった時の、妃殿下の安堵どされたお気持ちを詠みになったお歌です。

寛仁親王妃信子殿下

病人びやうにんになりたる我を支へくれしまなざし優しき人等に和むひとり なじ

寛仁親王妃信子殿下には、一昨年乳がんの手術をお受けになりましたが、これまで妃殿下には、病気はしても病人にならないよう努めてまいりました。

そうした中、多くの方々が心優しく支えてくださいましたこととお思いになり、感謝しつつ病気を乗り越えたいとお気持ちを詠みになったお歌です。

彬子女王殿下

道真公遷られたまふ御祭りに頬にふはりと和風の吹く

今年の五月、太宰府天満宮の仮殿遷座祭に参列された折、神様が目の前をお通りになる直前、やわらかい風がふわりと吹いたのを感じになりました。

先代の宮司様がよく、「神様は風だよ」と言われていたことを体感され、有り難くお思いになったことをお詠みになつたお歌です。

憲仁親王妃久子殿下

仁和寺のお堂にひびく声明の音ふくらみて我をつつみぬ

真言宗御室派総本山仁和寺の金堂にて弘法大師御生誕千二百五十年記念法会が営まれ、ご参列になつた時のお気持ちをお詠みになつたお歌です。

承子女王殿下

突然に和鳴にぎやか秋空を鳥もどりて夕暮れを知る

時折、お訪ねになる神社の杜にカラスが戻つてくると、十分程度で辺りが暗くなる様子が、正確な日暮れの時報のようだとお感じになりお詠みになつたお歌です。

召人 榮原永遠男

歌木簡うたもくかんかかげみそひと三十一文字をよむぬく温ぬくき響ゆびきに座は和みたり

召人控 三田村雅子

いにしへの大和言の葉たどり読み解ときや放たむ昏くらきむすばれ

選者 三枝昂之

友垣ともがきに夕焼ゆふやきけ空そらに咲さく花はなに和なごへて遠とほく歩あみつづける

選者 永田和宏

ひと滴しづくの檸檬れもんに紅茶こうちやは色変かへてはるかなり中和ちゅうだ測定曲線

選者 今野寿美

琴ことは琴ことでもこの国くにに生まれたる和琴わごんといへり六弦りくげんと知る

選者 内藤 明

海山の怒りの風を和らぐる言葉教へよ樹の中の鳥

選者 大辻隆弘

きたにしの風和ぐなへに冬の陽はわが頬を刷はくいたくやさしく

選 歌 (詠進者生年月日順)

栃木県 古橋正好

己が手で漉きたる和紙の証書手に六年生は卒業となる

アメリカ合衆国
カリフォルニア州

川崎ハルコ

かの日々に移り来し人等耕しし大和やまとと呼ぶ里アマンドの花

神奈川県 白杵喜行

呼びに来てくれたる人を追ひ越して電話に急ぎし昭和の夜道

香川県 岩倉由枝

和菓子屋をなりはひととして五十年寒紅梅に蕊をさす朝

埼玉県 高橋祐子

和だんすは母のぬくもり大島に袖をとほせば晩年に似る

福岡県 川添さとみ

風琴の和音のやうに柔らかに多言語混じりあへる教室

千葉県 小野文香

見逃した小さな小さな違和感の粒で自分が作られていく

石川県 宮村瑞穂

花散里が一番好きと笑みし友和服の似合ふ母となりぬる

京都府 小池弘実

目を瞑り一分間を祈るとき皆が小さき平和像なり

新潟県 神田日陽里

「それいいね」付和雷同の私でもこの恋だけは自己主張する

佳 作 (詠進者生年月日順)

群馬県 田島宏一

「わ」の札は和算の大家関孝和群馬を詠^{うた}ふ上毛かるた

山梨県 宮地清江

霜除けのネットより抜く蒨はうれんさう草根もとの赤み丸ごと和へる

三重県 廣田和子

カラムシは山羊の好物一抱へのカラムシ刈りて和む夕暮れ

山形県 高橋政治

和紙漉きのむらへ楮を山積みに祖父の引つ張るリヤカー押しき

青森県 豊島金吾

津軽路と越前つなぐ人の和の三百年を村史がかたる

東京都 黒田道生

ゆく春に寄りそひ歩む仁和寺の御室桜の程よき背丈

岡山県 岡田耕平

炊事場は土間で三和土たたきで竈あり水瓶ありて若き母あり

長野県 竹内睦夫

和太鼓の五体揺るがす重低音我は獣ぞ我は勇魚ぞ

山形県 佐藤照子

青林檎のやうな和音を響かせて十八歳の夏を歌へり

東京都 鮫島千絵

亡き祖母の生涯好んだ色だった利休鼠の和名美し

岡山県 吉田英美

非対称不調和の美の壺を見る目には見えない作者の心

奈良県 杉田菜穂

和服着た私を連れて私とは違ふ私を探してみたい

東京都 佐藤 博

ハイビスカスを梅に見立てて酔で和へる日系五世に継がれるレシピ

東京都 吉田直子

選ばれた助詞のひとつで和訳した一行の詩は息をはじめ

新潟県 夏川愛菜

君と見た一等星はきらめいて僕の気持ちは飽和して行く

新潟県 蒲澤紅徠々

「先輩」と呼ばれる事の違和感は五月の連休前まで続く